

MOS/ACA

世界学生大会

2017

報告書

資格は、その道の専門家たちが、
これだけは知っていてほしいと
考えるところを、
カタチにしたものです。
オデッセイ コミュニケーションズは、
さまざまな分野の
専門家たちと協力して、
時代が必要とする資格を、
皆さんにご提供していきます。
新しい資格を取得することで、
新しいキャリアを、
そして新しい日本を、
切り開いていこうとする人たちが
オデッセイ コミュニケーションズは
応援しています。



株式会社オデッセイ コミュニケーションズ
代表取締役社長

出辰 勝也

MOS/ACA

世界学生大会

2017

報告書



MOS/ACA 世界学生大会 2017 報告書

目次

- P.3 「MOS/ACA 世界学生大会 2017」を終えて
株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ 出張 勝也
- P.4 日本代表発表会
- 2017年度の日本代表
- 特別プログラム「佐々木芽生氏による特別講演」
- P.8 アメリカでの決勝戦
- P.10 決勝戦に参加した日本代表の体験記
- P.12 「MOS/ACA 世界学生大会 2017」決勝戦の結果
- P.14 2018年の大会参加要項
- P.15 MOS/ACAについて
- P.16 2017年度の国内入賞者 一覧

「MOS/ACA 世界学生大会 2017」を終えて

MOS、ACA世界学生大会に声援を送ってくださる皆さまに感謝申し上げます。

本年度の大会は、7月30日から8月2日まで、ディズニーランド(カリフォルニア州アナハイム)で行われました。ここで行われるのは今回で2回目になりますが、来年度は東のディズニーワールド(フロリダ州オーランド)で予定されていると聞いています。ディズニーワールドでの実施は3回目になります。

今年は、ACAの日本代表に該当者なしと判断したため、MOSのみの日本代表派遣となりました。

結果はこのあとのページでご覧いただく通り、高口辰佳君(麻生情報ビジネス専門学校)がエクセル部門で6位入賞となり、齊藤望さん(玉川大学)と野田菜摘さん(学習院大学)は残念ながら入賞することができませんでした。

このところ、日本代表の上位入賞が難しくなっているようです。日本代表の選考方法なども再考する必要があるかもしれません。

わたくしどもオデッセイ コミュニケーションズでは、資格取得に加えて、学生の皆さんに「成長の機会」を提供していきたいと希望しています。世界学生大会への派遣事業もその一環です。

今年の日本代表発表会では、映画監督である佐々木芽生さんにたいへん素晴らしいスピーチを行っていただきました。佐々木さんが日米の間でますますご活躍になられることをお祈りしています。

最後に、来年の大会にも多数の学生たちからの応募があることを、社員一同、期待しています。

株式会社オデッセイ コミュニケーションズ
代表取締役社長 出張 勝也

日本代表発表会

日本は今年で15回目の参加となる「MOS 世界学生大会」。2017年度大会には、日本全国から延べ4万9,000人の学生が日本代表の座を目指してエントリーし、そこから選び抜かれた入賞者は総勢180人。そして、その後の最終選考を経て、今年には3人の日本代表が決定しました（本年度のACAの日本代表は該当なし）。

2017年6月30日（金）、『東京国際フォーラム』（東京都/千代田区）で開催した日本代表発表会には、全国から67人の学生が参加。日本代表の発表に続き、本年度の特別プログラムとして、ドキュメンタリー映画の監督・プロデューサー 佐々木芽生氏（N.Y.在住）による特別講演が行われ、映画製作を通して学んだ人生の教訓が贈られました。

2017年度の日本代表は以下の3人です。

<日本代表>

MOS 世界学生大会 2017

ワード部門

- 玉川大学 4年（静岡雙葉高等学校卒）／齊藤 望

エクセル部門

- 麻生情報ビジネス専門学校 2年（福岡県立三池工業高等学校卒）／高口 辰佳

パワーポイント部門

- 学習院大学 4年（八千代松陰高等学校卒）／野田 菜摘

ACA 世界学生大会 2017

該当なし

※敬称略



会場の模様



弊社代表より日本代表へ
表彰パネルを授与



佐々木芽生氏による特別講演



2017年の日本代表に選出された3人。
壇上では、アメリカの決勝戦での活躍に向けた決意を一人ひとりが述べた

<特別プログラム>

MOSやACAの取得を通じ、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を目的に開催している「MOS/ACA 世界学生大会」。アメリカでの決勝戦に挑む学生を発表する「日本代表発表会」では、世界にチャレンジする学生代表への応援メッセージとして、国際的に活躍しているゲストによるご自身の人生や体験についての特別講演も実施しています。

次ページに、佐々木芽生氏による「特別講演」の一部をご紹介します。

特別講演 「おクジラさま」が教えてくれたこと

約7年間におよぶ、「クジラとイルカ問題」をテーマとした長編ドキュメンタリー映画の製作を通じて、私が学んだ“3つのこと”についてお伝えします。

1 「悔いを残さない」を、選択や決定をするときの判断基準にする

世界中で半世紀以上も物議を醸している「捕鯨問題」を題材とした映画を製作するにあたり、周りの反対をはじめ、SNS上でのバッシング等を含むあらゆる妨害に遭いました。しかし、この問題に対する答えを探しもしないでやめてしまったら、一生後悔すると思い、映画作りを決意しました。劇場公開までに何年も費やしましたが、結果的に自分のやりたいことが実現したので、死ぬ前に悔いを残すことはありません。

2 多種多様な価値観を認める柔軟性と共存意識をもつ

映像では、紀伊半島南端の小さな町に、「人類共有の財産であるクジラやイルカの捕獲は許されない」というグローバリズムの波が衝突してくる様をとらえましたが、こうしたグローバリズムとローカリズムの対立・衝突・分断は、いまや世界中で起きています。地球上には、さまざまな価値観や背景をもつ人たちがいて、その多様性が世界を豊かにしています。自分と違うからといって排除すれば、そこには自ずと衝突が生まれます。グローバル化の時代を生きるうえでは、他者の話にも耳を傾け、たとえ賛同できなくても、“共存していく”という意識をもって向きあうことが必要です。

3 あふれる情報に心を流されない手綱(=自分で考える)を握っておく

この世は、人の生な感情(心の動き)が動かしています。しかも今日は、SNSを含むあらゆるメディアから膨大な情報が生活に流れ込み、私たちの感情を揺さぶり続けています。戦争に代表されるように、人間の感情には獐猛に暴れる側面もあるので、心の手綱を握って感情をコントロールしていくことが重要です。そのために必要なのは「自分の頭で考える」こと。思考停止した途端、とんでもないところに人生や社会が流されてしまうので、自分の考え・意見をもって人生に臨んでいくことが大切です。

(講演内容からの抜粋)

監督・プロデューサー / 佐々木芽生氏 プロフィール

1987年よりN.Y.在住。フリーのジャーナリスト、経済情報番組のキャスターやレポーターを経て独立。2008年、初の監督作品『ハーブ & ドロシー』を手がけ多数受賞。2016年に完成した長編ドキュメンタリー映画『おクジラさま〜ふたつの正義の物語』は世界各地で上映中。日本では、2017年9月から全国で劇場公開。

特別講演(動画)の全内容は下記HPで

http://www.odyssey-com.co.jp/competition/2017/final_jp.html



受賞した学生の皆さん

「MOS/ACA 世界学生大会 2017」日本代表発表会 協賛企業

日本マイクロソフト株式会社

アドビ システムズ株式会社

株式会社 ユーキャン

富士通エフ・オー・エム株式会社

日経BP社

株式会社インプレス

株式会社翔泳社

※順不同

アメリカでの決勝戦

2017年7月30日(日)～8月2日(水)(現地時間)、米国のアナハイム(カリフォルニア州)の『ディズニーランド・ホテル』において「MOS/ACA 世界学生大会 2017」決勝戦が開催されました。

今年、MOSの大会には世界122カ国から延べ111万500人以上が、ACAの大会には世界67カ国から延べ19万2,000人以上の学生がエントリー。決勝戦では、精鋭152人(MOS)と47人(ACA)の学生代表たちが、世界No.1を目指して競いました。

今年の決勝戦での日本代表の結果は、下記の通りです。



授賞式会場内の様子



授賞式ステージでの日本代表

■ 決勝戦での日本代表の結果

[MOS 世界学生大会 2017]

エクセル 2013部門	第6位	高口 辰佳	(麻生情報ビジネス専門学校 2年)
ワード 2013部門		齊藤 望	(玉川大学 4年)
パワーポイント 2013部門		野田 菜摘	(学習院大学 4年)

(10位以内が入選者として順位発表があります)

※敬称略

決勝戦に臨んだ2017年度の日本代表



ロサンゼルス空港に到着

写真:右/決勝戦会場となったホテル
下/本番直前のリハーサルでのキーボードチェック



歓迎レセプションで各国の代表と交流を図る日本代表



決勝戦に臨む直前の日本代表



決勝戦翌日のアクティビティにて

決勝戦に参加した日本代表の体験記

エクセル 2013部門

高口 辰佳さん (麻生情報ビジネス専門学校 2年)

日本代表に決まってからは、授業でエクセルやワードに関してわからない人のサポートを積極的に行うなど、自分なりのやり方で勉強しながら決勝戦に向けて準備しました。

結果は、3位までの上位には入賞できず、6位でした。

当日の試験は、日本のMOSと比べると、より実践的で作業量も2倍ほどあったので、来年、決勝戦に挑戦する方は、模擬試験以外にもさまざまな問題を解いて、臨機応変に対応できるようにしておくよと思います。

現地では、世界中の方々と交流したり、異国の地で文化の違いを肌で感じるなど、初めての体験をたくさんすることができました。こうした貴重な体験ができたのは、何十・何百もの数えきれない方々のおかげです。スタッフや関係者の皆さま、ありがとうございました。日本代表として決勝戦に参加することができて、本当に良かったと思っています。



パワーポイント 2013部門

野田 菜摘さん (学習院大学 4年)

昨年のエクセル部門の国内入賞に続き、今年は念願の日本代表に選んでいただき、本当に嬉しかったです。その際、もちろん責任やプレッシャーは感じましたが、一国の代表として自分が世界の舞台に挑む、という実感はわきませんでした。

しかし、いざ決勝戦の会場に足を踏み入ると、50以上の国と地域(欧米、中南米、アジア、アフリカまで!)から集まった人々が一堂に会していました。そこで初めて、“日本を代表して、自分がこの大会に参加している”という自覚を持つと同時に、この先の人生で二度と経験できない貴重な瞬間を目の当たりにしている、という感動がありました。

世界というレベルの高さは想像も及ばないもので、残念ながら思うような結果は出せませんでしたが、実り多いこの体験は必ず将来の自分の糧となると思います。このような機会を与えてくださった皆さまに心より感謝します。



ワード 2013部門

齊藤 望さん (玉川大学 4年)

“就活での武器になれば…”と思い勉強をはじめたMOSですが、上位レベルのワードの試験に挑戦して満点をとった結果が、日本代表に選んでいただく足がかりになりました。

実際に日本代表に決まった後は、背負っているものの大きさにくじけそうになることもありましたが、お世話になった方や応援してくれる人たちの顔を思い浮かべ、“感謝の気持ちを、かたちにして返すんだ!”と奮起して、勉強に取り組みました。

上位入賞はかないませんが、今回の経験を通じて多くのことを学びました。人々への感謝の気持ち、知らない世界に自ら飛び込み挑んでいく大切さ、チャンスはどこに落ちているかわからない等々…、普段の生活のなかでは学べない数々の特別な体験ができました。「日本代表として決勝戦に出場する」という素晴らしい経験から学んだことを糧とし、今後の人生に役立てていきたいと思っています。



米国・サーティポートの総責任者、アロン・オズモンド氏とともに

「MOS/ACA 世界学生大会 2017」決勝戦の結果

今夏、アメリカで開催された「MOS/ACA 世界学生大会 2017」決勝戦の1位から3位までの受賞結果は、以下の通りです(写真は、各部門の世界チャンピオン)。

本大会は、グローバルな大会として、世界中のさまざまな国と地域から各国代表が参加します。今回のMOS上位国は、香港やマカオ、タイなどのアジア圏に加え、ルーマニアやブルガリアなどの東欧諸国も健闘国でした。また、今年のACAの1位はアメリカ。エクセル(2016)との2冠を射止める結果となりました。

MOS

ワード 2016部門



- 1位 Cheng Wai Fung (香港)
- 2位 Jeong Chi Kei (マカオ)
- 3位 Eta Katherine (ナイジェリア)

ワード 2013部門



- 1位 Tiberiu Danciu (ルーマニア)
- 2位 Ka Hei Chao (マカオ)
- 3位 Manh Tu Bui (ベトナム)

パワーポイント 2016部門



- 1位 Pattarapong Tantikowit (タイ)
- 2位 Dheya Madhani (アメリカ)
- 3位 Sofia Morales Gil (グアテマラ)

パワーポイント 2013部門



- 1位 Yip Pak Ming (香港)
- 2位 Daniela Pavlova (ブルガリア)
- 3位 Chang Wu (中国)

エクセル 2016部門



- 1位 John Dumoulin (アメリカ)
- 2位 Sarawut Khamset (タイ)
- 3位 Jayden Cooke (ニュージーランド)

エクセル 2013部門



- 1位 JiaXi Dai (中国)
- 2位 Sam Millar (イギリス)
- 3位 Kyriakos Chatziefthymiadis (ギリシャ)

ACA



- 1位 Ana Katarina Charvet (アメリカ)
- 2位 Elliot Tawns (オーストラリア)
- 3位 Yi-An Chen (台湾)

2018年の大会参加要項

「MOS/ACA 世界学生大会 2018」の決勝戦は、2018年7月29日(日)～8月1日(水)(予定)に米国のオーランド(フロリダ州)で開催します。参加要項は以下の通りです。

参加資格

2017年4月1日(土)～2018年3月31日(土)までにMOS、またはACAを受験して合格した方

参加申込方法

2018年4月2日(月) A.M.11:00までに、
大会公式サイトから参加申込み



大会公式ポスター

「MOS/ACA 世界学生大会 2018」大会公式サイト

▶ <http://www.odyssey-com.co.jp/competition/>

Facebook「MOS/ACA 世界学生大会」 <https://www.facebook.com/mos.gakusei>

オデッセイ コミュニケーションズは、日本代表を選出するにあたり、「MOS/ACA 世界学生大会 2018」国内選考を行います。対象となる資格試験や大会に関する詳細および最新情報は、大会公式サイトでご確認ください。

「MOS/ACA 世界学生大会 2018」協賛企業

日本マイクロソフト株式会社
株式会社 ユーキャン
日経BP社

アドビ システムズ株式会社
富士通エフ・オー・エム株式会社
株式会社インプレス

※順不同

「MOS/ACA 世界学生大会 2018」主催

米国・サーティポート(Certiport, a business of NCS Pearson, Inc.)

MOS/ACAについて

マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS)

MOSは、ワード、エクセル、パワーポイントなどのマイクロソフトのOffice アプリケーションの利用スキルを証明する国際資格。日本で1997年に開始したこの資格の累計受験者数は400万を突破(2017年)。社員教育に採用する企業や、就職支援の一環として授業や課外講座で資格取得を目指す教育機関も増えています。

資格取得のメリット

- 「合否」の結果は受験後すぐに判定。取得したその日から履歴書に記載できます。
- パソコンスキルの証明として、就職時のアピールに効果的です。
- 世界的に行われている共通の資格試験。習得したスキルは世界標準として認定されます。

詳しくはMOS公式サイトで

<http://mos.odyssey-com.co.jp/>



アドビ認定アソシエイト (ACA)

ACAは、アドビ システムズ社が認定する国際資格。世界各国のクリエイティブ分野で標準的なツールとして活用されている同社のアプリケーション(フォトショップとイラストレーター)の利用スキルを客観的に証明することができます。

資格取得のメリット

- 企業や教育機関で求められるスキル調査のうえで開発されている認定資格のため、今日のデジタル世界のコミュニケーションに必要となる基礎的なスキルが身につきます。
- 技術的なスキルが認定されるため、そのアプリケーションに熟達していることを客観的に証明できます。

詳しくはACA公式サイトで

<http://adobe.odyssey-com.co.jp/>



■学内受験のご案内

多くの学生が円滑に受験できるよう、学内受験を行う教育機関も増えています。団体受験や試験会場登録など、学内受験のメリットや手続方法などについては下記までお問合せください。

株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ 営業部

TEL.03-5293-1885 Eメール:school@odyssey-com.co.jp

2017年度の国内入賞者 一覧

「MOS 世界学生大会 2017」の国内における各部門の入賞結果は、P.16～P.24の一覧の通りです。

大学・短期大学部門

ワード部門

順位	氏名	学校名
1位	齊藤 望	玉川大学
2位	八切 敦也	摂南大学
3位	山中 夕祈	創価女子短期大学
入賞	安藤 黎	東海大学
入賞	五十嵐 瑠那	創価女子短期大学
入賞	稲葉 隆寛	中京大学
入賞	小野 瑞希	東洋学園大学
入賞	河田 唯	芝浦工業大学
入賞	近藤 理央奈	ノートルダム清心女子大学
入賞	佐野 道隆	大阪電気通信大学
入賞	下田 脩太	立命館大学
入賞	武田 絵理奈	実践女子大学
入賞	田中 来知	東京農業大学
入賞	中村 彩子	獨協大学
入賞	福田 裕也	近畿大学 産業理工学部
入賞	南 香織	創価女子短期大学
入賞	宮崎 佳祐	近畿大学 産業理工学部
入賞	八尾 海斗	大阪電気通信大学
入賞	矢代 桃子	敬愛大学
入賞	渡邊 柊	摂南大学

エクセル部門

順位	氏名	学校名
1位	八切 敦也	摂南大学
2位	高橋 一磨	慶應義塾大学
3位	矢代 桃子	敬愛大学
入賞	井谷 友香	日本女子大学
入賞	井上 摩耶	近畿大学 産業理工学部
入賞	鵜尾 香那子	武庫川女子大学
入賞	宇佐美 綾乃	共立女子大学
入賞	梅田 梨里	国際短期大学
入賞	榎本 彩乃	早稲田大学
入賞	粕谷 卓史	学習院大学
入賞	川内 諒	神奈川大学
入賞	岸田 梨沙	立正大学
入賞	久米 咲衣	関西学院大学
入賞	小林 隼人	近畿大学
入賞	信部 翔	大阪電気通信大学
入賞	清水 大二郎	東海大学
入賞	豊嶋 直也	近畿大学
入賞	中島 歩子	大妻女子大学
入賞	西尾 海斗	室蘭工業大学
入賞	森 はるか	山口大学

※以下、入賞者一覧 敬称略 / 入賞者は50音順

パワーポイント部門

順位	氏名	学校名
1位	野田 菜摘	学習院大学
2位	宮崎 佳祐	近畿大学 産業理工学部
3位	前田 安夢呂	青森大学
入賞	稲船 愛望	北海道情報大学
入賞	尾根 菜央	近畿大学
入賞	上林 楓恋	近畿大学
入賞	雲井 智子	近畿大学 産業理工学部
入賞	小橋 駿斗	近畿大学
入賞	齊藤 壱哉	関東学園大学
入賞	島田 美佑希	梅花女子大学
入賞	下川 功祐	駒澤大学
入賞	菅 陽向	大阪工業大学
入賞	菅谷 将昭	日本大学
入賞	空岡 雅大	近畿大学 産業理工学部
入賞	長濱 湧汰	デジタルハリウッド大学
入賞	福田 祥大	明治学院大学
入賞	松居 真輝	北海道情報大学
入賞	宮森 万葉	東洋学園大学
入賞	山上 護	近畿大学 産業理工学部
入賞	吉田 明生	東洋英和女学院大学

専門学校部門

ワード部門

順位	氏名	学校名
1位	高口 辰佳	麻生情報ビジネス専門学校
2位	草野 寧々	北海道情報専門学校
3位	杉村 北斗	大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校 甲府校
入賞	新井 杏奈	日本工学院八王子専門学校
入賞	磯貝 沙良	大原スポーツ公務員専門学校 高崎校
入賞	市原 拓斗	大原情報ビジネス専門学校
入賞	上田 梨紗	大原情報ビジネス専門学校
入賞	岡田 貴之	船橋情報ビジネス専門学校
入賞	岡安 祐紀	大原簿記情報ビジネス専門学校 大宮校
入賞	小川 優規	大原情報ビジネス専門学校
入賞	木村 綾乃	新潟ビジネス専門学校
入賞	近藤 輝	日本工学院専門学校
入賞	柴田 一紗	北海道情報専門学校
入賞	清水 このみ	北海道情報専門学校
入賞	仁科 佑太	大原情報ビジネス専門学校
入賞	萩原 彩登	日本工学院八王子専門学校
入賞	原澤 美琴	大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校
入賞	東田 江理子	大原情報ビジネス専門学校
入賞	宮澤 裕貴	日本工学院専門学校
入賞	山中 祥世	大原情報ビジネス専門学校

エクセル部門

順位	氏名	学校名
1位	齋藤 翔人	新潟ビジネス専門学校
2位	濱野 涼太	専門学校穴吹コンピュータカレッジ
3位	高口 辰佳	麻生情報ビジネス専門学校
入賞	上村 亮介	専門学校穴吹コンピュータカレッジ
入賞	金森 舞	船橋情報ビジネス専門学校
入賞	草野 寧々	北海道情報専門学校
入賞	小石 真優	麻生情報ビジネス専門学校
入賞	小林 暁雄	上越公務員・情報ビジネス専門学校
入賞	近藤 輝	日本工学院専門学校
入賞	瀬尾 茜	専門学校穴吹コンピュータカレッジ
入賞	高田 涼平	大原簿記情報ビジネス専門学校 大宮校
入賞	田坂 絵利奈	穴吹情報デザイン専門学校
入賞	谷内 裕香	北海道情報専門学校
入賞	西田 佳史	大原簿記情報専門学校 熊本校
入賞	仁村 雄生	専門学校穴吹コンピュータカレッジ
入賞	丹羽 胤未	日本工学院八王子専門学校
入賞	濱口 雅哉	専門学校穴吹コンピュータカレッジ
入賞	皆川 泰宏	水戸電子専門学校
入賞	宮前 勇喜	ホスピタリティ ツーリズム専門学校
入賞	渡邊 藍	ILPお茶の水医療福祉専門学校 福岡

パワーポイント部門

順位	氏名	学校名
1位	林田 望来	新潟ビジネス専門学校
2位	高口 辰佳	麻生情報ビジネス専門学校
3位	内田 のどか	大原情報ビジネス専門学校
入賞	秋山 優華	麻生情報ビジネス専門学校
入賞	稲永 舞衣	麻生情報ビジネス専門学校
入賞	内田 歩美	中央情報経理専門学校 高崎校
入賞	梅木 佳菜	麻生情報ビジネス専門学校
入賞	喜多 玲子	神戸電子専門学校
入賞	小沼 葵	中央情報経理専門学校 高崎校
入賞	小松 杏奈	麻生情報ビジネス専門学校
入賞	齋藤 尚哉	東北電子専門学校
入賞	汐崎 美穂	専門学校メトロ総合ビジネスカレッジ
入賞	下釜 茉奈	麻生情報ビジネス専門学校
入賞	白濱 舞華	麻生情報ビジネス専門学校
入賞	瀬尾 茜	専門学校穴吹コンピュータカレッジ
入賞	多田 友萌	専門学校穴吹コンピュータカレッジ
入賞	仁科 佑太	大原情報ビジネス専門学校
入賞	濱口 雅哉	専門学校穴吹コンピュータカレッジ
入賞	矢野 愛実	専門学校穴吹コンピュータカレッジ
入賞	山本 勇斗	大原テクノデザインアート専門学校

高等学校・高等専門学校・高等専修学校部門

ワード部門

順位	氏名	学校名
1位	宮下 魁斗	星槎国際高等学校
2位	森田 忍	東京都立荒川工業高等学校
3位	龍華 美紅	早稲田実業学校 高等部
入賞	池田 早耶香	好文学園女子高等学校
入賞	石川 紗也袈	柳川高等学校
入賞	梅崎 耀平	柳川高等学校
入賞	緒方 翼	柳川高等学校
入賞	沖 紅葉	好文学園女子高等学校
入賞	藏田 沙織	玉川学園高等部
入賞	桑村 舞子	愛知県立春日井商業高等学校
入賞	清水 愛	玉川学園高等部
入賞	新出 海斗	柳川高等学校
入賞	中辻 彩音	好文学園女子高等学校
入賞	沼田 芳	玉川学園高等部
入賞	橋本 あかり	栃木県立那須拓陽高等学校
入賞	花岡 冬真	横須賀市立横須賀総合高等学校
入賞	樋口 晶季子	玉川学園高等部
入賞	樋熊 朱音	玉川学園高等部
入賞	古川 拓也	日本工業大学 駒場高等学校
入賞	南 遼太	愛知県立昭和高等学校

エクセル部門

順位	氏名	学校名
1位	野口 辰也	三重県立松阪工業高等学校
2位	龍華 美紅	早稲田実業学校 高等部
3位	澤村 友梨香	玉川学園高等部
入賞	猪上 祥希	奈良大学附属高等学校
入賞	大城 星	柳川高等学校
入賞	桑村 舞子	愛知県立春日井商業高等学校
入賞	佐藤 陽	名古屋市立北高等学校
入賞	白井 杏奈	玉川学園高等部
入賞	田嶋 紗奈	奈良県立郡山高等学校
入賞	玉川 優衣	頌栄女子学院高等学校
入賞	西方 裕也	玉川学園高等部
入賞	新田 絢那	仙台育英学園高等学校
入賞	沼田 芳	玉川学園高等部
入賞	花岡 冬真	横須賀市立横須賀総合高等学校
入賞	樋口 晶季子	玉川学園高等部
入賞	樋熊 朱音	玉川学園高等部
入賞	深野 七葉	頌栄女子学院高等学校
入賞	藤田 美由紀	名古屋市立北高等学校
入賞	堀 彩奈	柳川高等学校
入賞	宮下 魁斗	星槎国際高等学校

おまんらの挑戦、待っちよるぞ！



Microsoft® Office Specialist

MOS|ACA

世界学生大会

2018

Adobe® Certified Associate

写真：坂本龍馬(立位) 高知県立坂本龍馬記念館 提供

パワーポイント部門

順位	氏名	学校名
1位	久郷 真鈴	好文学園女子高等学校
2位	中谷 友維	兵庫県立明石北高等学校
3位	樋熊 朱音	玉川学園高等部
入賞	池田 早耶香	好文学園女子高等学校
入賞	伊坂 麻鈴	好文学園女子高等学校
入賞	石川 七望	クラーク記念国際高等学校 柏キャンパス
入賞	岩切 雪美	好文学園女子高等学校
入賞	大山 梨音	好文学園女子高等学校
入賞	小長 あかね	柳川高等学校
入賞	坂井 千夏	好文学園女子高等学校
入賞	新谷 文袈	柳川高等学校
入賞	高村 芽郁	好文学園女子高等学校
入賞	津守 穂乃香	好文学園女子高等学校
入賞	鳥取 亜由香	好文学園女子高等学校
入賞	長岡 歩	神戸学院大学附属高等学校
入賞	夏山 結名	聖霊高等学校
入賞	二瓶 風吹	東京都立蔵前工業高等学校
入賞	古川 拓也	日本工業大学 駒場高等学校
入賞	前田 明日香	好文学園女子高等学校
入賞	松本 梨瑚	好文学園女子高等学校

MOSやACAを受験してWebからエントリー

オデッセイ 学生大会

検索



株式会社オデッセイ コミュニケーションズ

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル
電話：03-5293-1881(平日10-18:00) Eメール：mail@odyssey-com.jp

※Microsoft, Microsoft Office のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
※Adobe, Adobe Certified Associate ロゴは、Adobe Systems Incorporated(アドビ システムズ社)の米国およびその他の国における登録商標または商標です。



© HERGÉ / MOULINSART 2017

新しい資格、新しいキャリア。

MOS/ACA 世界学生大会 2017 報告書

発行 株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル

お問合せ先 カスタマーサービス

TEL.03-5293-1881 (平日10時~18時) Eメール mail@odyssey-com.co.jp

©オデッセイ コミュニケーションズ2017-2018 本誌掲載の記事・写真などの無断転載を禁じます。

※受賞者の方の掲載内容は、2017年8月取材時のものです。